

# 3回目接種 12歳以上全員

**厚労省方針 2回目から8カ月後**

新型コロナウイルスワクチンの「ファースターワクチン」と呼ばれる3回目接種について、厚生労働省は、2回目接種を終えた12歳以上全員を公費接種の対象とする方針を決めた。専門家でつくる厚労省の分科会が28日の会合で方向性を了承した。11月中旬に改めて会合を開き、正式決定する。2回目接種後、8カ月が経過する人から順に接種券を配布し、打つことになる。

厚労省は、まずは感染・重症化リスクが高い医療従事者と高齢者、基礎疾患がある人を対象にする方向で検討していた。後、時間の経過とともにす

## コロナワクチン

べての年代で低下する傾向や、追加接種をすると感染予防効果や重症化予防効果も改善するといった海外の研究報告を確認。感染予防効果が時間の経過とともに下がるのはどの年代も同じで、年齢で区別する必要はないとの意見でまとまり、異論は出なかった。副反応は2回目までと違うワクチンの使用を認めるかどうかに決めることにした。

2回目までと違うワクチンの使用を認めるかどうかも、次回の会合で決める方針だ。英国やフランス、ドイツなどでは、2回目までの種類にかかわらず、3回目は米ファイザー製かモデルナ製の「BNT162b2（メッシュワクチン）」RNAワクチンが推奨されている。12歳以上を3回目接種の対象としても、ワクチンは確保できる予定になっている。（下記佳子）

厚労省からは、「その都度対象を拡大すると大混乱する」といった意見も出た。2回目まで早く打った人から順に接種券を配布すれば実務的に混亂がなく、高リスクの人が先行して接種できるといった声も出た。

本が対象者を広げる判断は

早いところだった。

ただ、3回目接種の推奨度合いについて厚労省は「濃淡がある」として、委員からの「あらいう人に対して強く接種が推奨されるのか示すべきだ」との指摘が相次いだ。厚労省は2回目接種までと同様に、予防接種法に基づく努力義務を課す方針だが、中でも「特に追加接種が推奨される人たち」を特定し、どのような情報を提供するかについても議論をした上で、11月中旬に正式に決めることにした。

厚労省は、まずは感染・重症化リスクが高い医療従事者と高齢者、基礎疾患がある人を対象にする方向で検討していた。